時嶽戦場図會

四

ル 4
3788
4

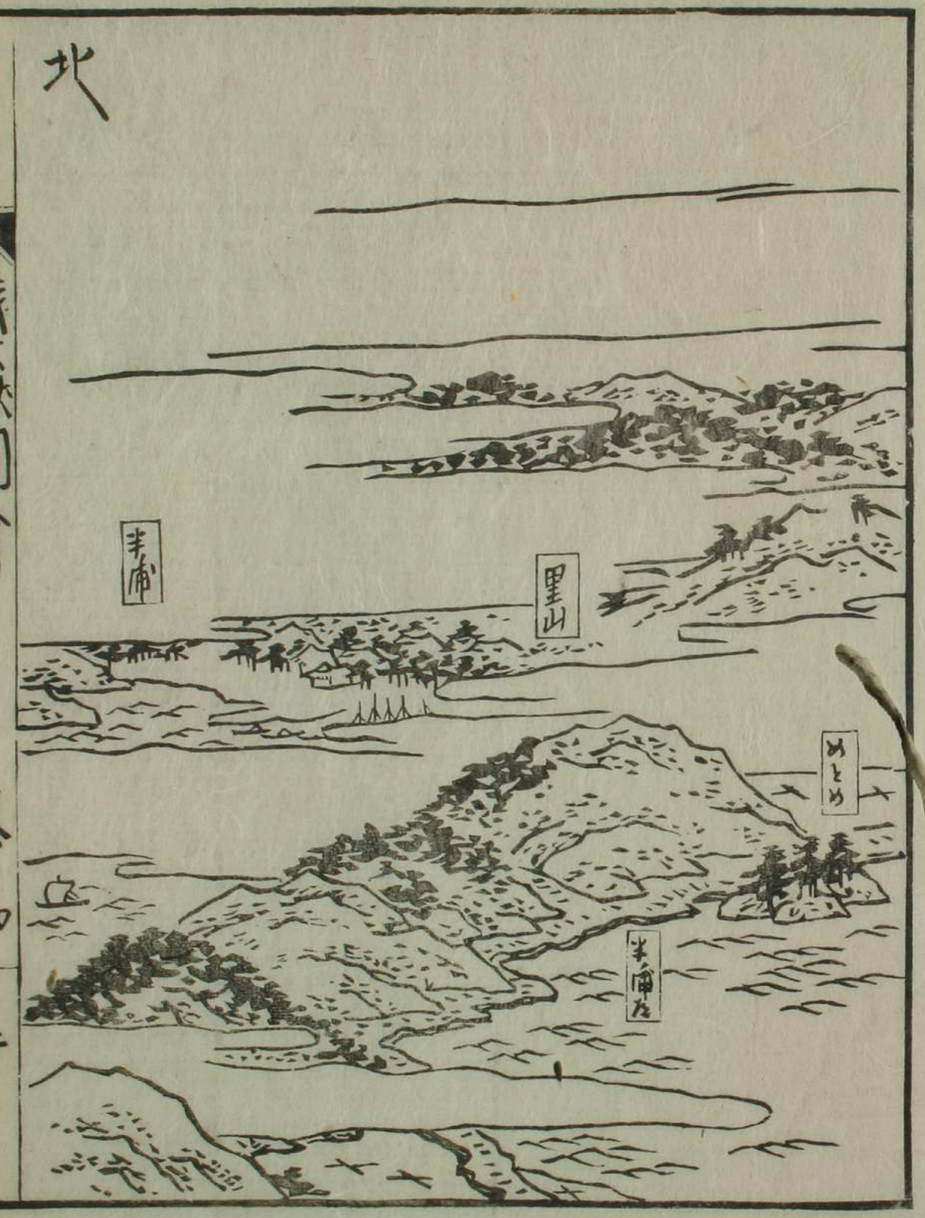
ル4
3768
巻 4

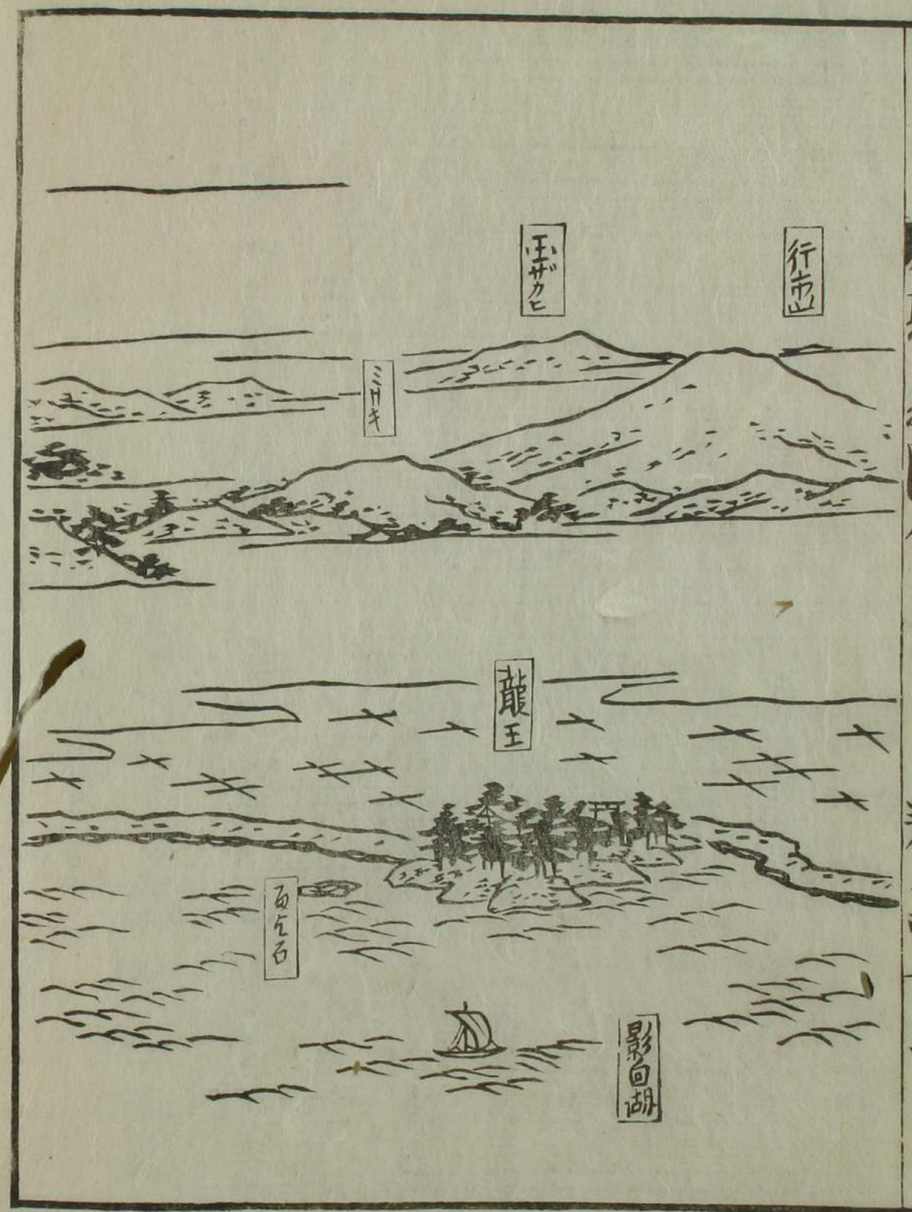
東京都立大学図書館
昭25.12.16
購入

蝦ケ嶽惣圖之四右之下

東京都立図書館

さてしるべしこの号とゝなせ圖全そのふ
沙そ都の名称鄙ゝ名称すること
ハちしてなを孫もことかゝふえわりめる
そのあるを見に事かえる蝦ケ嶽ハ寫る
彼ゝ所遠ゝ遠ゝ知べしなべく佳景ハ山
名あわしふ蘆を濃うでハ風景倚わ
ざるそのを見ゝ奥ゝ船帆掛滑り
この系をもあつて玉里ゝ山もえわう
彼市山ゝ名ゝ北海ゝ沒ゝ西ゝ佳せゝ


北
半俗
里山
めとめ
半俗石


行市山
玉ザクヒ
ミヤキ
龍王
百石
影面湖

湖北賤ヶ嶽圖會卷之四

目録

大岩山　中川侯死跡及碑石
高山陣　黒田邑　筒井陣
茶臼山之評

湖北賤ヶ嶽圖會卷之四

大岩山

賤ヶ嶽より相去事四十丁是大岩脇陣ヶ山嶽と長蛇三陣の首陣にして中川侯組こと信元

伊藤を立て　松柏茂し陣門の伊藤組なり

山城国笠木ふも良相似る石なり是梁ヶ

瀬行市山ヶ賤ヶ山嶽に取掛る喉口なれば大

事の場所なり如何様の陣にしく

や陣の場所とおもふ平地也高小陣営

うらぶ北面ハ湖水小道有二裾切崖也伊藤と

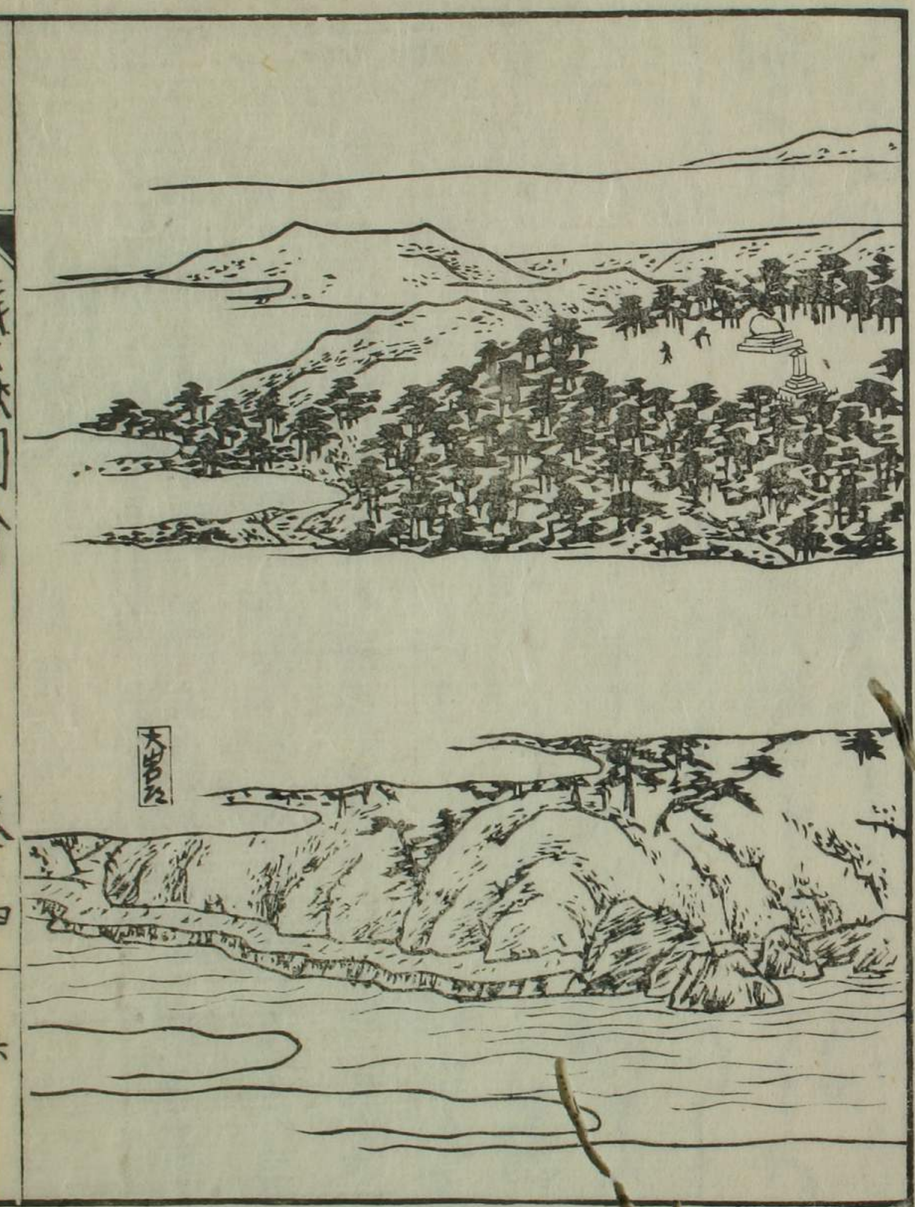
ゑるに佐久弓討入しハ馬前に義まを言へ
ゑり後軍に備をいまと後と義ゑ攻をあらし
寅ハ赤軍を虚と係て討入めべし　主従怪
とハハ田之の法師ゑりもまそにみゑ　筒井
ゑ嶋も脇墨ゑ家ゑ　従ゑが死とゑる義を重
し忠とゑる人なゑ田名をたしゑ従死と
せまし　めべし　ゑども実長寛実にし
て信義と和矢人ゑまこばゑ合もはさく
すしゑ家門とかゑやしゑのふぞゑるん

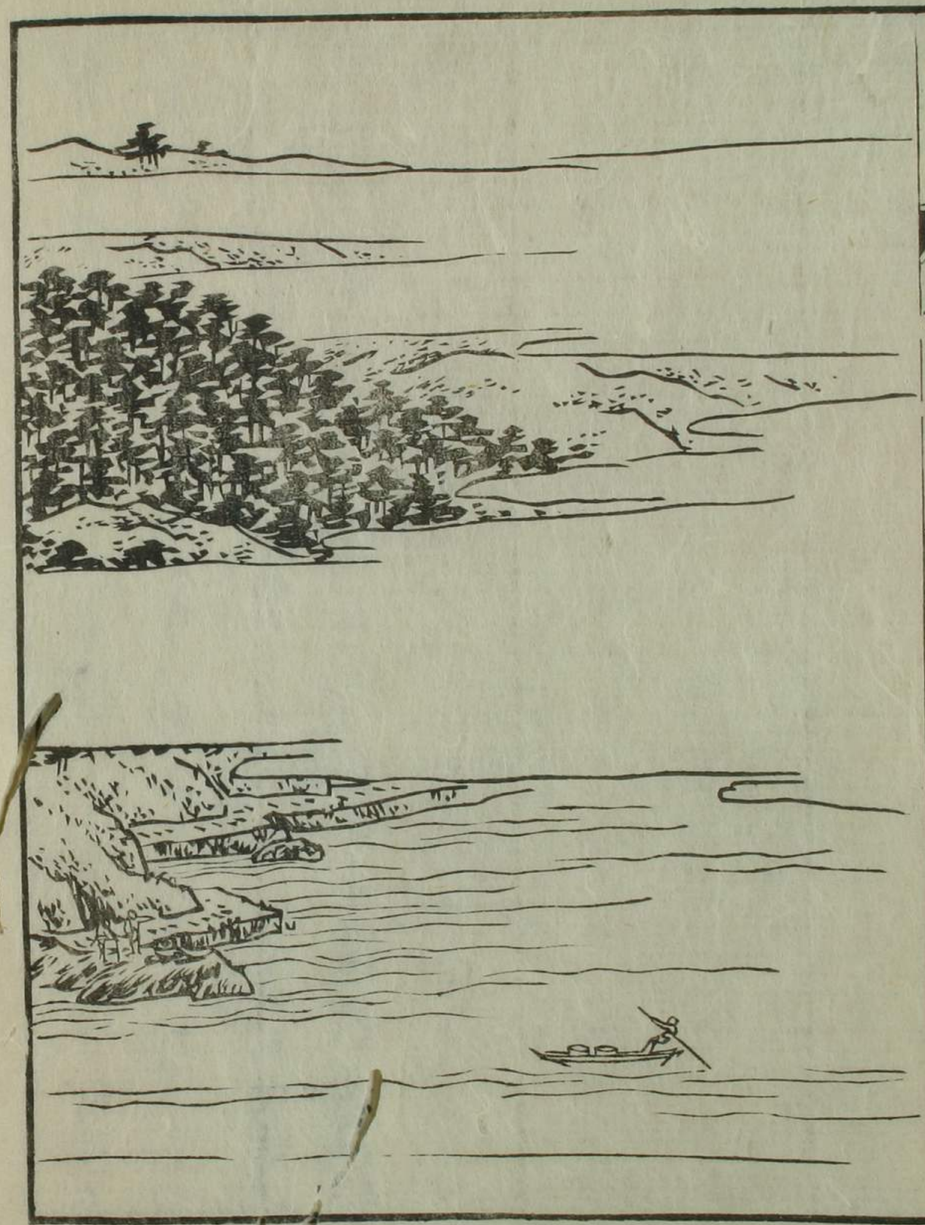
中川従死跡及碑石

山内に討死ゑ場所有て遺石ゑり寅ゑ君
ゑ建めゑにゑ加ゑまゑ近世の従碑石と
建ゑゑもゑる事文いふしへとゑ面ことくにして
捕ゑ結ゑりゑそゑりけりいゑらふゑゑ
近列せん江列碑石圖會解に巻とゑ者お
枝のゑへゑ面べし　栄枯いゑんせん佐久弓数
番沢信盛ゑゑ　事石ゑゑるしゑ人ゑ
ゑまゑゑハ誰ゑるゑゑ　一樹ゑの也て
死地とゑ氏ゑゑゑよゑ汚面ゑゑゑ　義死ハいへど
ゑ徒ゑよゑゑ従の死跡ハ建石碑文ゑて

[illegible]れたる人ふりこてふ
[illegible]領君をも[illegible]
乃[illegible]人界に栄枯交
なるもこの[illegible]泳ふよりんの信盛因姓
の[illegible]中にもうの人は[illegible]
と云[illegible]の建石蜆石ともそこ[illegible]
[illegible]此乃[illegible]と云[illegible]信盛[illegible]
ば[illegible]に[illegible]と[illegible]
[illegible]乃四邦と[illegible]
とうつ[illegible]人の[illegible]

[illegible]と[illegible]
[illegible]
[illegible]陽の業と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

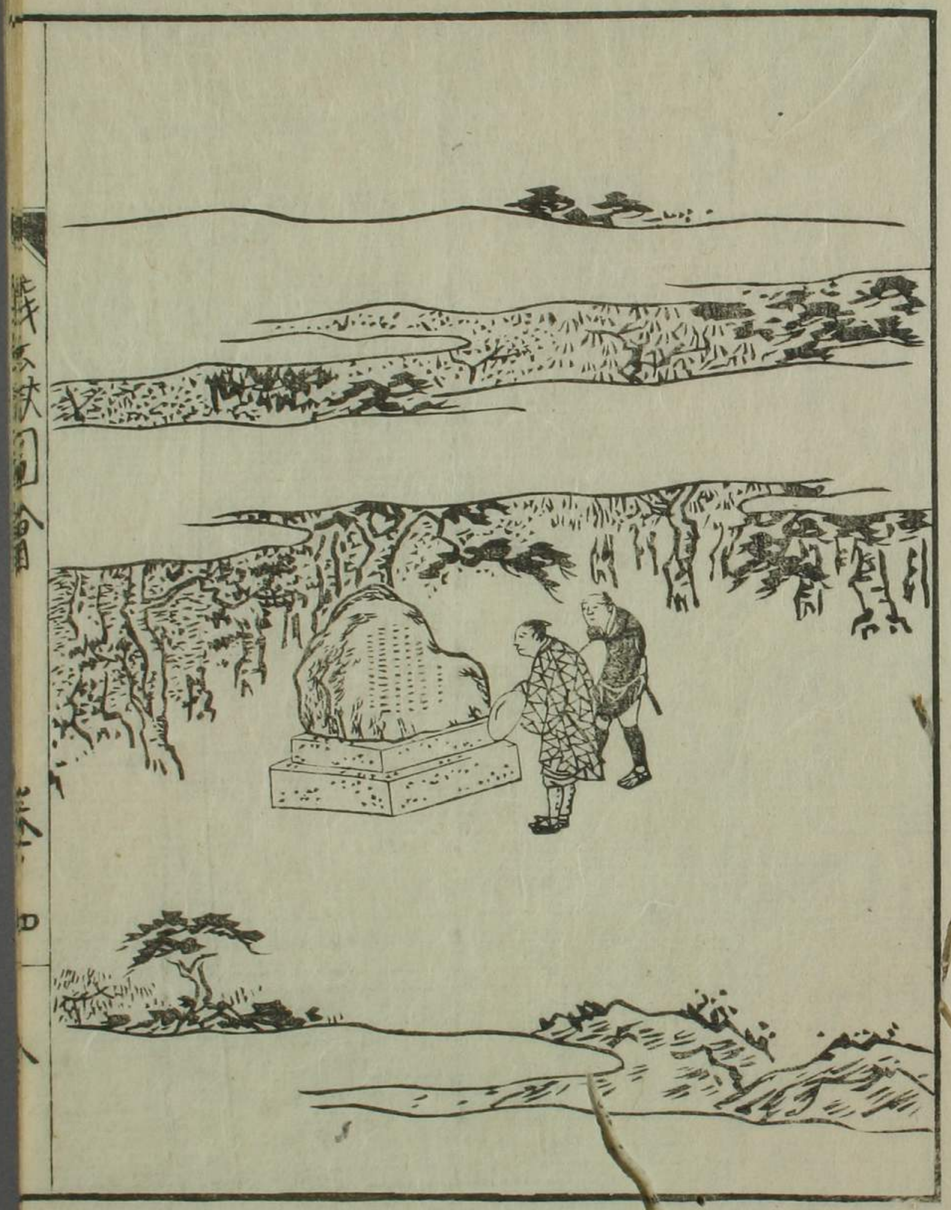


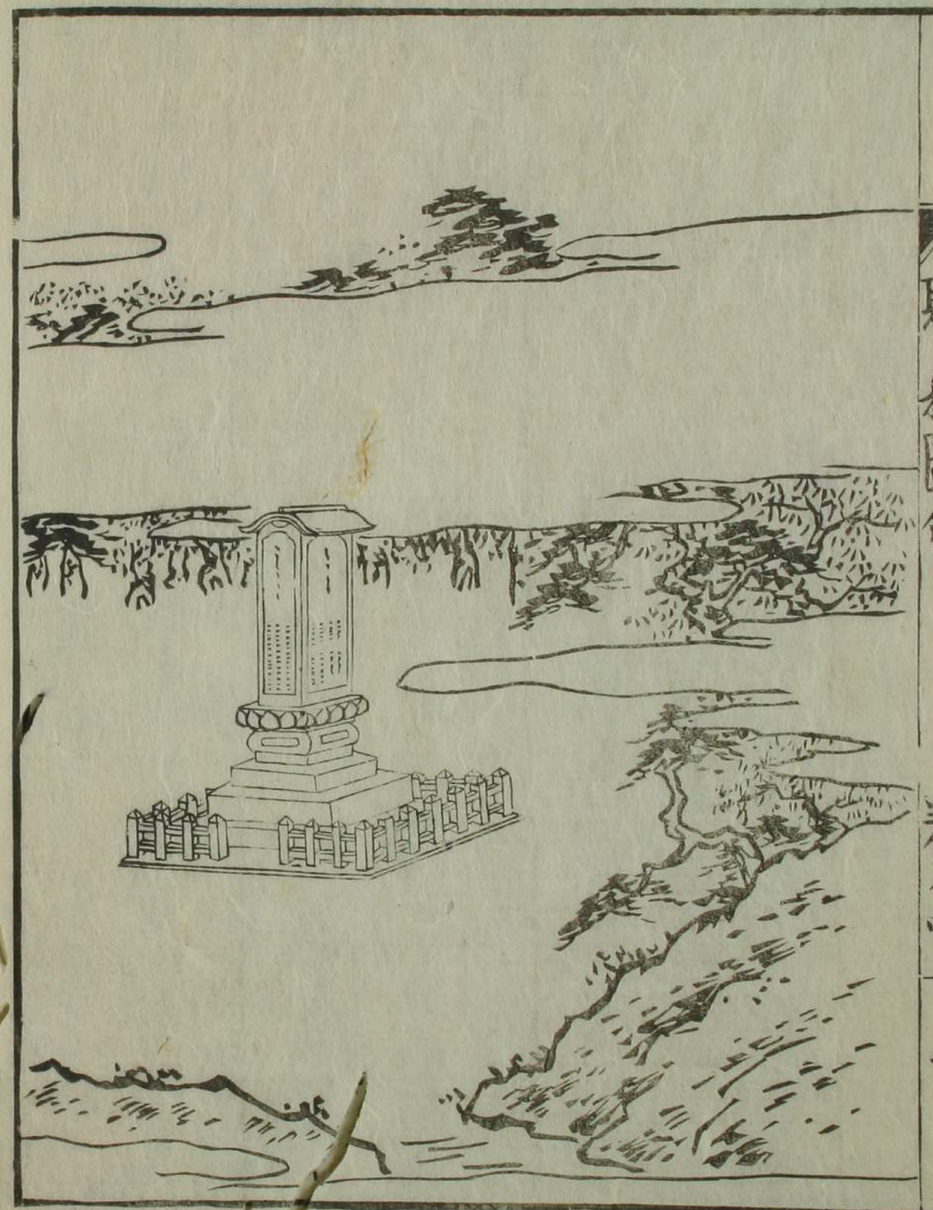


高山陳

る高迫が陳所ハ鉢ヶ嶽と云峯一四十丁中川筋
より二十四丁上山麓長が陳所へも拾丁ありまた右迫
高岳乃たのこけ高の大よに迫くさ
戦法おど並〳〵なり〳〵ぶ中りが彼きると
又拾て四丁山に駐屯しハ三人にてその
人々あげ弓鉄ちとす陳所と云
ちの鉄のこ誘ものはけりが里人いのけ山むし
彼が樹ぎりむ山橋の大樹山中より落くるもよ
も夜明山ものハ湖の北よりうんきり水の色い

いろ〳〵と所〳〵の色て湖ようる橋ふのろ
あるひも橋ヶ嶽乃所ふハわ茅れまるくと
ちくくるるにるる伊吹のゆふられ乃所
とうぶ鶴一ハいる蟻花湖上に鉄の川ふ
ふぐりあ乃ものがこ山ほ中ハ井ふの女房
逢要所よ話とと橋ものどいれまは湖ふあ
り〳〵湖月さ遊ハ湖中よ楽とうなで長
箏と吹バ今宮慈と云ものくり百矣踊て船よ入者も
ありしと云伝のよ〳〵ち人云ぬふがいるふ
橋樹の更余ハむ〳〵よさがわ〳〵

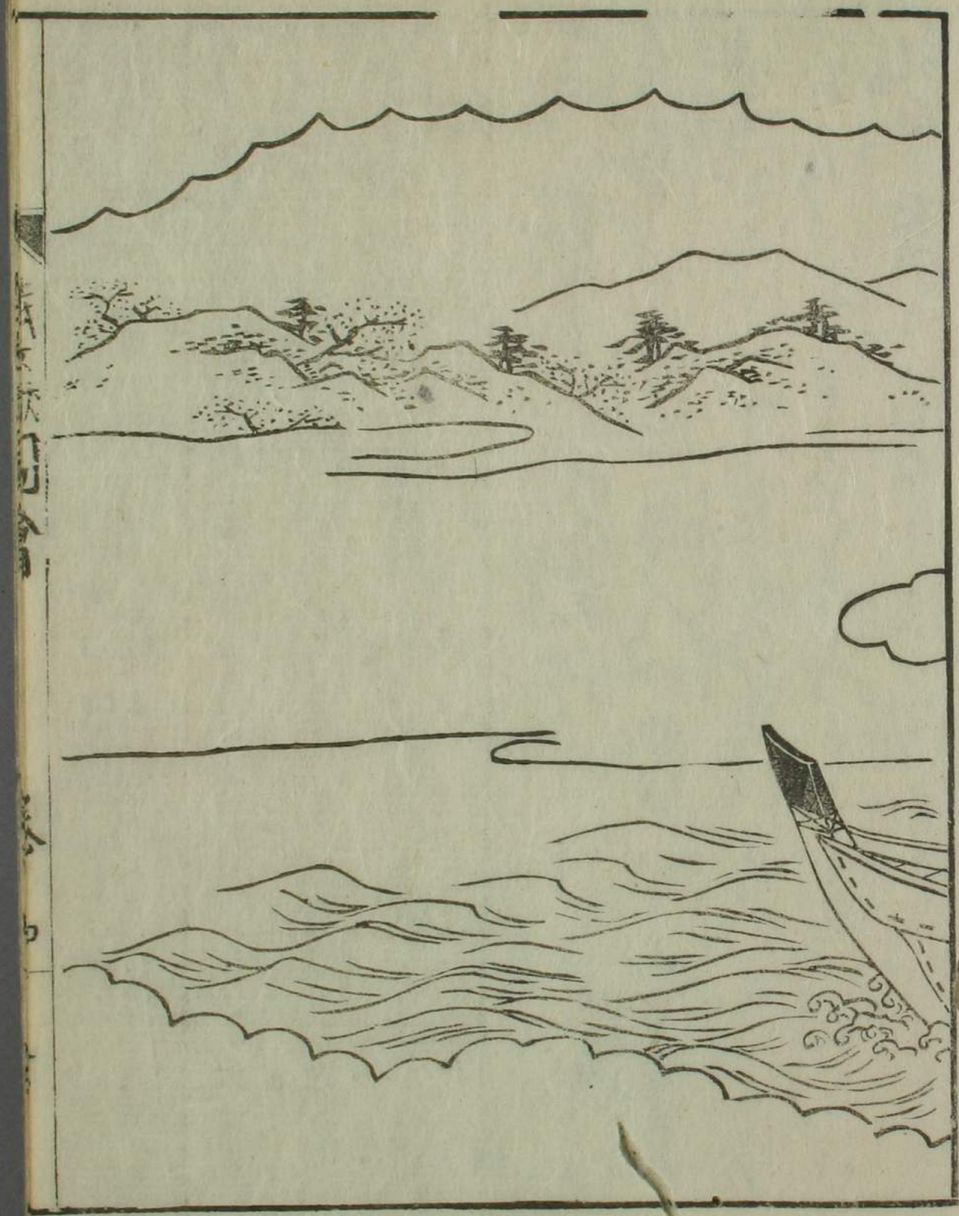


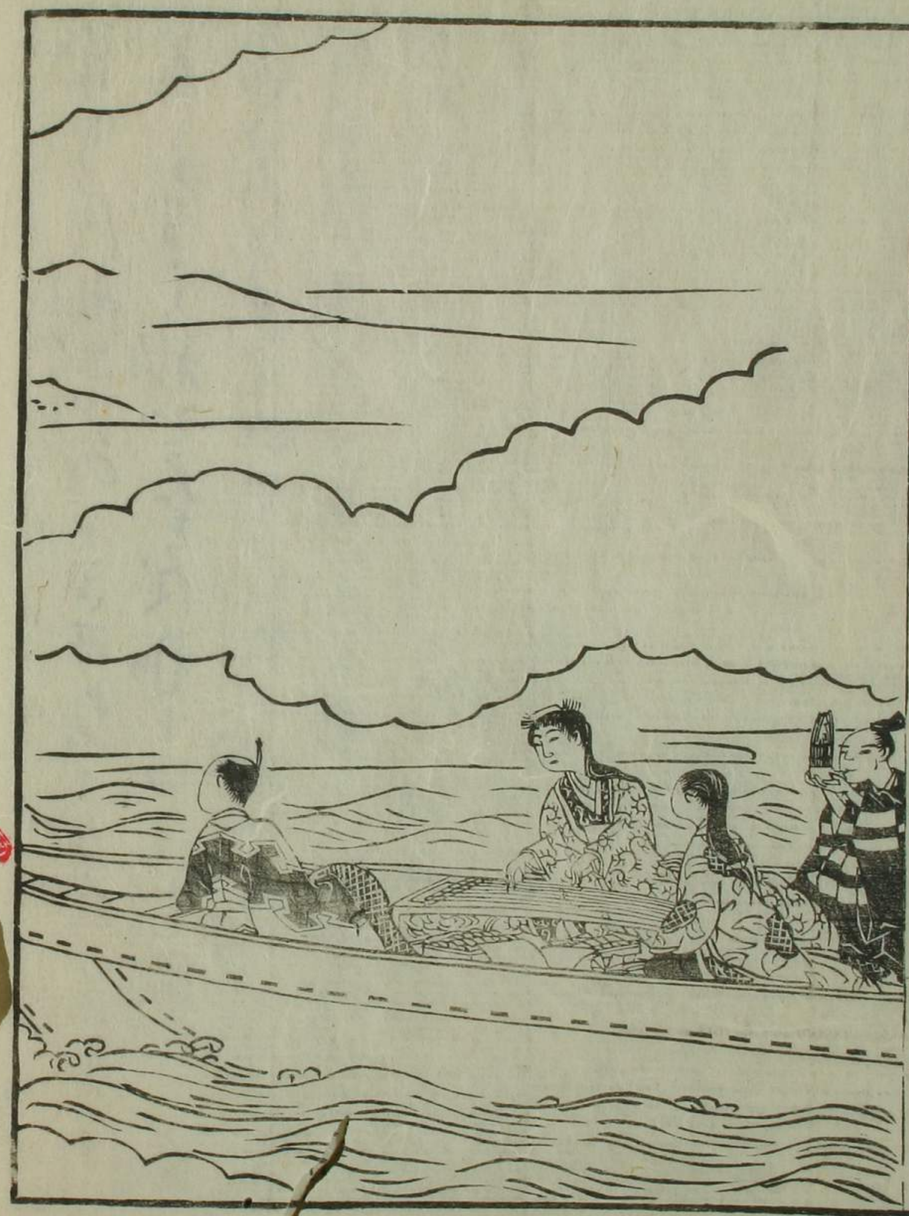


恵田邑

南邑一戦ときハ陳場と成大岩田と和ち兵糧運送役をつとめらりとゝ恵田家祖君如ゝ之の恵田村よハ遠て同西浦生駒迄恵田邑とゝ南邑より遠世人あり藩沼行ゝとゝ農業ハ少なく漁ハ世人ハ大志あつく一度四海義名とゝ聞ゝ来ル此こゝ世ハ名ゝ聞ゝとゝ有ゝ有し遠学ハ有り沼ゝ於大津一茶庵に休ル小数ゝ計ル体ハ有ゝ

元ゝ顔面凹のごとき所あつて義沼が魚とゝ成ゝ毛ゝ形とゝ成ゝ目と成ゝ光人と射ゝ我雄西の沼ハ月と軽しい西湖北と成ゝ人ゝ名ゝ駕と命ゝ藩沼とゝ成ゝ弾ゝ発とゝ成ゝ命みちゝ成ゝ毒ゝ成ゝ王ゝ死ゝ葬のとき有ゝ天数有ゝ人ゝ名ゝ一朝ゝ成ゝ人ゝ名ゝ百貫ゝ成ゝ





物産はと問ひ給ふ。信ハ六位相模の守と申べしなど
二年は齢あまたは尾のごとくこまの緒をはるべれ
ど四十文は後ハ一月もつゞけるとぞ云に義信ハ休し
あるを思いふこゝ義信ハ甚だ重宝の名たかつる右
と振りの人ぐいに取りたるべ感とゝ
この人のやどとゝふ所に彼仲人ハ行くゝ
其元帥ゝ事とゝの人や世ばいとゝの御ことあ
再今とゝひ申の無居義信の人と決ふ
はおゝとゝ事ゝあるゝの裏ゝと
礼布衣のうハぬゝ行よ伺ゝとゝ

同易二冊と勢トとうる事ハ
ゝを携ゝいわゞ茅老ゝ後ハ後を
ゝ夜ゝしゝゞ天数を知る
事を得ハ勇ハ他とゝ
事を読ゝ英雄ゝ
為ゝ地とゝ
ゝる伝ハ海のゝ
ト伝ゝも合戦と
伝ゝ
ゝの

労とせば永和とせばとつよ為はいかで神よ
あらはせる人なれば為りて聞て回ぜん年云ふ
ごとく今徴為ふ列しく後保五百貫なり年
四十文よりおりび為体ちとせ徒ありいよ〳〵命こと
よ端やいかのもの脈をとりて風と信〳〵きよ
なり〳〵よ舎しく又舎するなる自ちやあ自ハ為こと
紙よ物ちよ為ハ望自ゆの重死ハらの人ハ
ほとあ〳〵為ふ登一負れわと為〳〵ちもの
息義俗治世のときの華ゆ難ハ為〳〵為ふ
三下おりあよ世人詞ハに切雑歌きく

経天縫地のメノも用ひげるときハ英功あら
るもびもの乱世の時ハたるわきんら見野ちん
為ん元へびして歌ハみれあるるはさめ
乃ごとちと中紙ら神ちよあんたきたれは
紙ふメ為あるわれ英あとちむづ

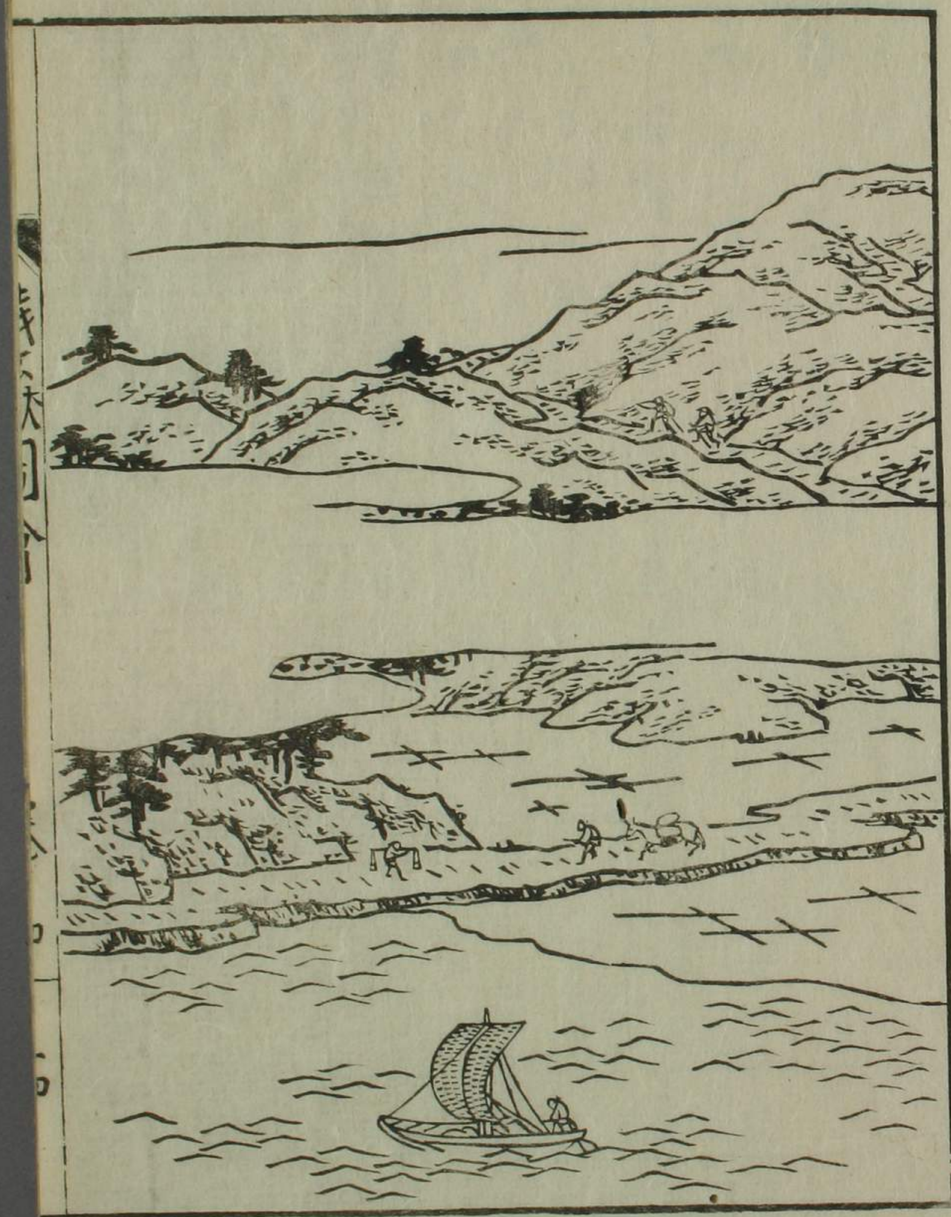
筒井陳

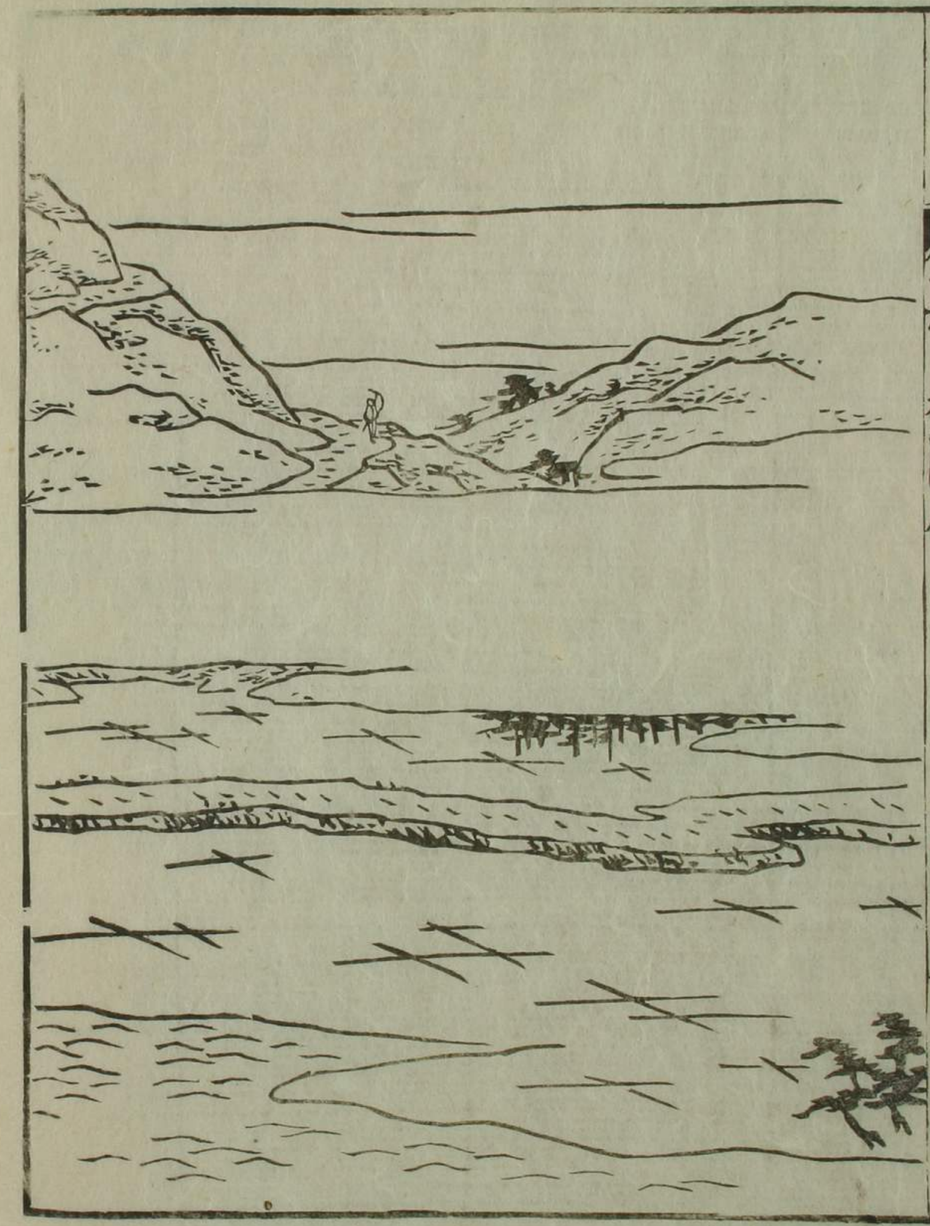
筒井入ハ見ちるも一負のねるり詩和多一ち真
糟蹴と為と人世四海掃清れふあるば為ひ人
三絃五常れ儀を三〳〵ちて関云孔子れ道ふひ
下民極ひ貴れ為ちおく行わしらば勇名れ

士風を変て収斂を[illegible]ぶらぶらもむ
らくいらの人衆極霸と称し[illegible]ふ良
仰らるゝあつて事と函嶺より北に疾あり順多ぐ
二海のはも疾おろて目和天と俗名せらるる孫
雨よも后小備ゝ中川義と助に出来ゝしゝ
美濃へ羽書と号し[illegible]ゝ南[illegible]孫[illegible]今
ゝゝゝ[illegible]もなく中川が孫より
七丁立つて立花秀長が[illegible]田ゝ[illegible]
十三丁あり[illegible]
遠勝ゝ[illegible]

茶臼山之評

筑前秀吉小牧井ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
て味軍ゝに部勝破れいきあひあり味
方屈ゝれ[illegible]ゝて茶臼山と称ゝ[illegible]
て相明を数百[illegible]ゝ[illegible]
て軍勢数百の数と[illegible]ゝ[illegible]
ゝて[illegible]と[illegible]ゝ[illegible]
芝原ゝして立毛めし[illegible]
ゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]
味方ゝ遠ゝ[illegible]





秀吉が勢を駆て攻るる係よハあるで敵を迎
撃の為に升なるん為の山とスるよ白ありて
あるるさ為よ仕をおハ楠延府正成が宇
都の宮城攻るるるるるの伯るる世変ら
地り拒ぬと称ハ平ありるは係ハ地利と
為ぬれるの浦ふ海舎ハるれ仮ぬべるる田
を赤影白鳥ふ輝すり革ありち地利を知て
茶臼山の地道とも知るべるるるハ敵ふ升伝ハ
敵るるるれ一人ふ濃ふ幸係へ来るり茶臼山と
迎べきのこちりいるるべ楠云ふ仮ふ藤の書

城登べきふるるに来るれ利あるるるる兵備用ハべ
るるさられ二也若道仮勝ふ兵と敵るるるなれば
却て軍勢ハ徴如と知るを来るるのよわるるる
べるる秀吉ちんぞうやあれ係をすぐきを茶臼山の
号ふ思ふ地の縁ふをるるづきて廻り拒ぬ
いふ敵仮るべるるを来ぬ敵を迎ハるの係とせん
とあるるハ間吉城ハ敵のるるるを敵て流云を
又義ハ小須ふ舟よるて人ひるるる仮に美のていとな
さば勝ふ兵仮久ハふもひと泡もせで忍きるる退ぬ
べるる約ハ味方れ換亡のふるて必勝れ師とるへきや

為信義の義とあらんば幸甚よ仕らんずしてを所ふ
所也しかるを容といわ和と結び織田家乃重臣と懸を明よ
忠と義の義と逆ふ勝れも生と保のうち
あらんといつも主伝と云ん亡君に縋る小谷の
思も命をたるうえんうこの格にたも四海を掌の内
しあらんばかりで獲ざらん乃事道とする所の
きさらで永四海の君臣の義系を
うすかるべしこの二世にして業とうしの実
七姫自命を同日の人
湖北賤ヶ嶽圖會巻之四